



ワークスタイル変革と業務効率化へ クライアント仮想化ソリューションを導入

柔軟性・品質・コスト効率に優れた「M³DaaS@absonne」を採用

背景

ワークスタイル変革と業務効率化に向け、社員が自宅や外出先など、どこからでも安全に業務を行える仕組みを整備する。クライアント仮想化技術により、端末へのデータ保存を制限することで、セキュリティを強化したいと考えた。



横河電機株式会社
情報システム本部
情報システム部
部長
北原 卓氏



横河電機株式会社
情報システム本部
情報システム部
ICT企画推進Gr
國田 理砂子氏



横河電機株式会社
情報システム本部
情報システム部
ICT企画推進Gr
賀嶋 佑二氏

ソリューション

柔軟性が高く品質やコスト効率に優れたNSSOLのクライアント仮想化ソリューション「M³DaaS@absonne」を選定。要件に合わせて段階的に、アプリケーション仮想化環境とデスクトップ仮想化環境を導入する。

成果

幅広い業務が社外で安全に行える仮想化環境を短期間で実現。2016年4月からの新たな人事制度に合わせて本格的に利用を開始した。今後、利用者を段階的に増やし、ワークライフバランスと業務効率の向上を加速していく。

ワークスタイル変革と業務効率化へ、クライアント仮想化を検討

各種プラント設備の制御システムにおけるリーディングカンパニーとしてグローバルに事業を展開する横河電機。同社は将来のさらなる成長に向け、2015年度から2017年度までにわたる中期経営計画「Transformation 2017」を策定し、その一環としてワークスタイル変革とダイバーシティの推進、徹底的な業務効率化に取り組んでいる。

働き方の多様化が進むなか、一層の業務効率化を推進する仕組みとして、横河電機がクライアント仮想化技術の利用を検討したのは2014年のことである。この技術を活用すると、端末へのデータ保存を制限してセキュリティを強化しながら、どこからでも社内と同じデスクトップやソフトウェアを使って業務ができるようになる。同社は、社内で検証を進めながら、外部クラウドサービスの利用を含めた導入方法を調査した。

柔軟性などに優れた「M³DaaS@absonne」を選択して構成を最適化

横河電機はアプリケーションごとに求められる導入スピードや品質、コスト効率に応じて段階的に導入できる新日鉄住金ソリューションズ(以下、NSSOL)のクライアント仮想化ソリューション「M³DaaS(エムキューブダース)@absonne(アブソヌ)」を選択。2014年より、導入プロジェクトを3フェーズで実施している。フェーズ1では電子メール、フェーズ2ではオフィスソフトをはじめとした社内標準ソフトを実行するアプリケーション仮想化環境を、フェーズ3では業務ソフトも実行できるデスクトップ仮想化環境をクラウドサービスとして導入した。M³DaaS@absonneは、多様な端末や多段階認証に対応しており、要件に応じて仮想化基盤の構成を柔軟に変更できる。フェーズ3ではクライアント仮想化ソフトに「VMware Horizon View」を採用した。

幅広い業務ソフトが利用可能になり、ワークライフバランス向上を加速

横河電機は全フェーズを計画通り完了。2016年4月に開始した新人事制度に合わせて、本格利用を開始している。フェーズ1~2で実現したアプリケーション仮想化環境は約5000名が、フェーズ3で実現したデスクトップ仮想化環境は約1000名が利用可能になっている。デスクトップ仮想化環境の特徴は、特定のソフトに限らず、利用者が選ぶ幅広い業務ソフトを社外から安全に利用できるように個人専用の仮想デスクトップを用意した点である。多段階認証への対応で、会社支給の端末に加えて個人所有のPCやタブレットなどでもセキュリティを確保している。また、利用申請システムと連携し、申請後は自動的に利用環境が配信されるため、情報システム部門の負荷も低い。今後は、利用者を段階的に増やし、ワークライフバランスと業務効率の向上を加速していく。

Key to Success

横河電機がクライアント仮想化に取り組んだのは、中期経営計画に基づいて推進しているワークスタイル変革と業務効率化の加速が目的である。

情報システム本部 情報システム部長の北原卓氏は「ワークスタイル変革により働き方が多様化するなか、社員が業務効率をより高めるには新たな情報インフラが不可欠だと考えました。安全・安心な環境であることも絶対に譲れません。クライアント仮想化は、要件を満たす最適のソリューションです」と語る。

情報システム本部 情報システム部 ICT企画推進Grの國田理砂子氏は「最終目標は、自由度の高いデスクトップ仮想化環境を実現することでしたが、電子メールのセキュリティ強化を優先するなど、プロジェクトを3フェーズに分けて段階的に進めました」と振り返る。

同社が選択したのがNSSOLのクライアント仮想化ソリューション「M³DaaS@absonne」である。

國田氏は選択の理由を「フェーズ1~2では、当社のITアウトソーシングのパートナーであるNSSOLが提供元で、導入実績も豊富なM³DaaS@absonneのアプリケーション仮想化サービスを選択したため、短期間で導入を進めることができました。フェーズ3では、最終目標の実現に向け、改めて複数のITベンダーのサービスを評価し、品質・コストに最も優れたM³DaaS@absonneのデスクトップ仮想化サービスを選択しています。フェーズ1~2でNSSOLの技術力やエンジニアの質の高さを実感したことも選択理由の一つになりました」と話す。

M³DaaS@absonneの大きな特徴は

実績のある基本構成を用意しながら、ユーザー企業の要望へ柔軟に対応できることである。

仮想化基盤の構成を柔軟に変更 完成度の高い自動化も実現

NSSOLの対応に対する評価も高い。情報システム本部 情報システム部 ICT企画推進Grの賀嶋佑二氏は「トライアルなどを通じて洗い出した要望を、当社向けのサービスを提供する仮想化基盤にきめ細かく反映してもらうことができました。フェーズ3では利便性向上のため、仮想化基盤に対して多数の機能を追加・改良してくれています。特に、利用者へ仮想デスクトップ環境を配信する仕組みについては、完成度の高い自動化を実現してくれたと感じました。自動化は、フルクローンという個人専用の仮想デスクトップ環境の配信もサポートしており、利用者の申請からほぼ1時間で環境が利用可能

になります」と語る。

2016年4月から本格利用を開始したM³DaaS@absonneの評価は高い。

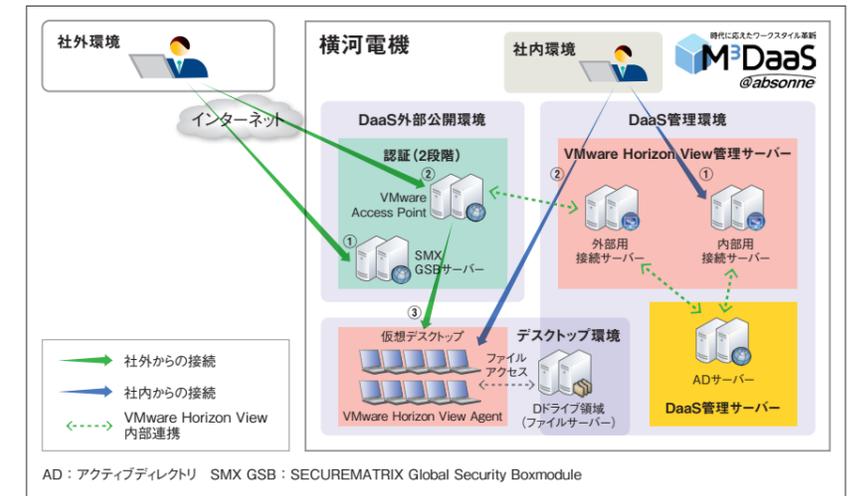
國田氏は「会社支給、個人所有を問わずPCやスマートデバイスがあれば、外出先や自宅など、どこからでも安全に幅広い業務ソフトを利用できる仕組みが整備できました。今後は、活用方法を社内にアピールし、利用者を段階的に増やしていきたいと思っています」と話す。

横河電機のNSSOLに対する期待はますます大きくなりそうだ。

賀嶋氏は「クライアント仮想化の導入プロジェクトは一段落しましたが、利便性の向上などについては、これからも積極的な提案と対応を期待しています」と語る。

北原氏は「当社はグローバルにグループ全体の業務効率化を追求しており、利用者からのリクエストはこれからも増えていきます。NSSOLにはそれらに対して、今まで以上にきめ細かく対応してもらいたいと思います」と話す。

横河電機が導入したクライアント仮想化ソリューション「M³DaaS@absonne」の概要



コアテクノロジー

デスクトップ仮想化、アプリケーション仮想化、クラウドサービス、BYOD、多段階認証

システム概要

●クラウドサービス: M³DaaS@absonne (VMware Horizon View)

YOKOGAWA

横河電機株式会社
本社: 東京都武蔵野市中町2-9-32
創立・設立: 1915年・1920年
資本金: 434億円 (2016年3月31日現在)
売上高: 連結4137億円 (2016年3月期)
従業員数: 連結1万8646名 (2016年3月31日現在)
グループ会社: 子会社88社、関連会社3社 (2016年3月31日現在)